

# 東京浅草中央ロータリークラブ

【週報】平成18年4月5日発行

第983回例会 第969号

会長:中村 義英 副会長:長沼 一雄 幹事:片岡 邦夫 会報委員長:藤野 勝彦

## ＜2005－2006年度テーマ＞

・超我の奉仕  
・超我の奉仕  
・20周年を迎えて、更に大きく『愛』の輪を

RI会長 カール・ウィルヘルム・ステンハマー  
2580地区ガバナー 古宮 誠一  
クラブ会長 中村 義英

### 今日の卓話

「ロータリーと仏教」

東京寝台自動車株式会社

代表取締役 近藤 龍観 様

紹介者: 植木 榮 君

### ◎次回卓話予定(4月12日)

「マーケティングについて」

エンバイロセルジャパン株式会社

代表取締役 打田光代 様

紹介者: 上原 洋一 君

## ＜4月の卓話予定表＞

4月5日	「ロータリーと仏教」	東京寝台自動車(株) 代表取締役 近藤龍観 様
12日	「マーケティングについて」	エンバイロセルジャパン(株) 代表取締役 打田光代 様
19日	「中小企業と政策金融」	(株)カジワラ 代表取締役 梶原徳二 様 (東京小石川RC)
26日	「超我の奉仕を元氣から」	立教大学コミュニティ福祉学部 非常勤講師 藤井陽江 様

## 【平成18年3月29日 第982例会の記録】

### 【会長報告】＜中村会長＞

2週間のご無沙汰でございます。地区大会でお逢い出来なかった方は3週間ぶりと言う事になります。桜の季節になりました。上野公園、隅田公園と日本でも屈指の桜の名所近くに住んでいる我々には嬉しい季節です。業平に新東京タワーの建設地が決まり、浅草地区に建設誘致を頑張っていた方々には残念ですが、隅田、台東地区と云うことで大変嬉しい事と思っております。

さて、今年度も第4コーナーに入りました、ゴールは見えて来ましたが、あと3ヶ月宜しくお願い申し上げます。

### 【幹事報告】＜片岡幹事＞

#### 【第9回理事・役員会 報告】 2006年3月8日(水)

##### ・審議事項

- 2月度会計報告 .. 承認
- 梅古木については20周年記念事業会計より支出する .. 承認
- 緑の基金(300)万円の内、(200)万円を取り崩して今年から始まる山谷堀公園のアジサイ植栽に充てる .. 承認
- 尚、アジサイは一株2,000円にて、ご希望の方には別に寄付を受け付けているそうです。

##### ・報告事項

対人地雷除去への本日の寄付金は、28,800円でした。

東京あすかRCより、3月14日に行われたIMのお礼が参りました、IM報告書を鋭意作成中との事です。

東京小石川RCでは5月12日(金)にジャーナリストの桜井よしこ氏を迎え特別例会を開催します。(資料事務所に有り)

84～85年度パストガバナーの近藤正夫様が3月9日ご逝去されました。

### ＜米山奨学生＞李志勇(リーツヨン)君のお別れの言葉



皆様のお陰で、3月25日をもって早稲田大学商学部を卒業いたしました。

長い間皆様には大変お世話になりました、誠に有難う御座いました。

今後とも社会人として、ぜひ皆様に温かく見守って頂きたいと思っております。

日本に来て6年間ずっと台東区に住んでいる私には第二の故里であり、クラブの皆様

と出会う事が出来て、これ程皆様にやさしくして頂き、他の留学生の誰よりも私は

ずっと幸せでした。言葉に表現出来ないほど皆様に対し感謝の気持ちで一杯・・

いっぱいです。最後に私と私の両親に代り、皆様に改めて心より深く感謝申し上げます。

今後は親孝行をし、仕事を頑張り、皆様の様に立派な社会人となる努力を致します、どうぞ末永く宜しくお願い致します。

### ＜交換留学生＞長島さんの例会訪問の言葉



皆さんお久しぶりです。青少年交換留学生の長島奨子です。

先日ウィンターキャンプで長崎に行ってきました。とっても楽しく充実した

2泊3日でした。4月は、ブレザー採寸やお花見、お茶会、もちろんこの浅草中央

ロータリークラブ例会への出席もあり、今から楽しみです。ではまた4月に！

### 【委員会報告】 ＜次年度永井幹事＞

第1回次年度委員長会を本日6時より4階駒形の間で開催いたします。該当の皆さんご出席おねがい致します。

来訪者数

例会出席報告

会員出席率

ゲスト5名 ビジター 2名	第982例会	総数49名, 出席37名, 欠席9名, 出席率 80.43%
	第980例会	修正変更/0名欠席 出席率100.00%(免除 2名)

ニコニコボックス	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■遠藤、藤田、中村、植木、永井 君 神埼様、前回に引き続き、卓話を楽しみして居ります</li> <li>■宮村 君 年間100%出席の表彰を頂き誠に有難うございます</li> <li>■永井 君 結婚40周年を迎えました、美しいお花有難う御座います</li> <li>■岩戸 君 結婚記念日のお花、ありがとうございます</li> <li>■矢野 君 結婚祝いのお花頂きました。VH 鈴木さん、岡崎さん 当日の手配等、本当に有難う御座いました お陰で素晴らしい10周年になりましたこれで後1年は 保ちそうです</li> <li>■観梅ツアー 一同 日帰り観梅ツアー参加の皆様、おつかれ様でした 残金をニコニコします</li> <li>■斉藤 君 吉田さん、旬の会「観梅ツアー」の記念写真ありがとう メンバー全員がカメラの腕で若々しく撮っていました</li> <li>■宮村 君 吉田さん、原田さん、観梅の写真ありがとう御座います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■宮沢、柿沼、遠藤、長堀、上原 君 李君の母君 黄瑞葉さん、妹君の李欣苓さんの例会訪問を 心より歓迎致します。十二分に日本をお楽しみ下さい</li> <li>■鈴木、牧野 君 李君卒業おめでとう御座います。又就職おめでとう 益々のご健勝を。</li> <li>■矢野、井田、斉藤、原田、永井、中村、園部、上野、長島、 山尾、長沼、大塚、岩戸、松崎、海内、吉沼 君 李志勇 君、卒業おめでとう、愈々社会人ですね。 お母様、妹さん、ようこそいらっしやいました。</li> <li>■長島 君 永井さん、アンコールワット前の拡大写真有難う御座います</li> <li>■柘 君 山尾さんに頂いた切符で三浦布美子と、ちび玉こと 竜小太郎の芝居と踊りを観て来ました。泣かされたり、 また、女形の美しさに感動をしました</li> <li>■中村、長島、松崎、山尾、上野 君 W B C、王ジャパンの世界一 うれしい！ おめでとうございます。</li> </ul>

【卓話】

「超我の奉仕を廻って」 弁護士 神埼正陳 様

紹介者 植木 榮



1) 1911年8月、アメリカ合州国の北寄り最西端に位置するオレゴン州ポートランド市において、全米ロータリー・クラブ連合会の第2回年次大会が開催されました。大会に参加したミネアポリス・ロータリー・クラブの会長で果物卸業を職業分類とするベンジャミン・フランクリン・コリンズが、コロンビア河の遊覧船上で、シアトル・クラブのジム・ピンカムと会話をした中で、「わがクラブでは 滅我の奉仕 (Service not Self) をモットーとしている」と語ったことがきっかけとなって、コリンズは翌日の本会議でService not self についてスピーチをすることになりました。これが大会参加者の共感を

呼び、同じくこの大会でアーサー・フレデリック・シェルドンが説いた “He profits most who serves best” と共に以後事実上ロータリーのモットーとして扱われるようになりました。

1915年に出版された「ロータリー通解」や1923年に採択された「決議23-34」がこのふたつを併記していることを見れば良くわかります。ところがロータリー通解には Service not self とありますが決議34号にはService above Self となっているのです。コリンズが唱えた時は not であつたのが、above に変わっているのです。ところが、この経過はロータリー史上明らかにされていません。何時何処の大会でどのような手続で変えられたのか、或いは唱えた本人コリンズが改訂したのか、全くわからないのです。

コリンズは1920年に没していますが、1921年3月号のザ・ロータリアン誌は彼の訃を報じた文の中で「ロータリーの建設者、今や世界に拡まったロータリーのスローガンの原作者コリンズ」と書いていますので、コリンズの生前に above に変わっていたことだけはわかります。自己を滅しても他者のために盡くせという内容から、自己のことを考える前に他者のことを考えるということになったので、大雑端に言えば、宗教的教条から倫理的な教訓になったのですが、ロータリー運動が多くの職業人の職業倫理の向上を目指したものであるとすれば、一部の選ばれた求道者のみに期待しうるnot selfよりも、現実的であり賢い変更であったといえましょう。小堀憲助先生はこれを「奉仕だ自己ではない」、「自己研鑽の奉仕」と訳し分けています。前者は一般には「無私の奉仕」と訳されているようです。

2) Service above Self は、以後85年近くを経て今や事実上ロータリーの唯一のモットーとなっています。そして又2005~6年度のRIテーマとして私達の目の前にあります。

ステンハマーRI会長が、年度のテーマにロータリーのモットーを当てたということには深い意味があるはずで、会長自らその意味を、「継続することの大切さを訴えたいという思いも含め、私たちの思考を導き、行動を促すあらゆる感動的なメッセージの中でも、ロータリーのモットー「超我の奉仕」5文字ほど、的確にロータリーと、ロータリアンの精神を言い表している言葉はありません。」と説明しておられます。そして、これに付け加えるべきことは、本来ないはずですが、若干私見を述べます。

私は、私流にロータリーを多面体の宝石に例えることにしています。1個の宝石はそれを見る人の視点、それから宝石に当てる光の色や角度や強さによって千変万化します。しかし、そのいずれも真の宝石を見ているのです。ロータリーは観念的に定義すれば、決議23-34の第1項に書かれているとおりです。

モットーやテーマやスローガンはこの定義されたロータリーをある視点から捉えたものと言えるでしょう。

1949年以来歴代RI会長が会長ターゲットあるいはRIテーマとして発表して来たものはそういうものです。

真実ではあるが、定義ほど完璧ではなく、ある面の特徴を強調するといった傾向があります。ステンハマー会長はそれを一番オーソドックスなモットー以外に何かあるかと私たちに呼びかけたのです。

3) このモットー (テーマ) は、ロータリー運動の実践面のあり方を言い盡して間然するところがないと

思います。これに対してロータリー運動の観念面を表してもっとも完璧なものが、The ideal of service(奉仕の心)だと思えます。この言葉は、日本語では古くから「奉仕の理想」と訳されて私たちに親しまれて来ました。しかし、日本語としては原意を必ずしも正しく表現していませんので、「奉仕の心」という小堀憲助先生の訳を使います(このような訳し方はつとに笹部誠PG(川崎クラブ)が「奉仕の観念(気持)」と訳されたことがあり、近くは菅生浩三元RI理事は「奉仕の理念」と訳しておられます。)

この「奉仕の心」のよって来るところは何かについて、RIの元事務総長ジョージ・ミーンズが「ロータリーの解説書」(The meaning of Rotary)という著書の中で論じています。そしてそれは、「すべて人にせられんと思うことは人にもその如くせよ」というキリスト教の黄金律であり、「己の欲せざるところこれを人にほどこすことなかれ」という論語の孔子の言葉であり、仏陀、モーセ、マホメットやギリシャ・ローマの哲人も同旨のことを言っていると述べているのです。

歴史的先後、洋の東西を超えて世界的に共通する宗教的啓示あるいは倫理原則に由来する「奉仕の心」をクラブ活動を通じて向上させ、それを人生のあらゆる面で実践する。ここにロータリー運動の本義があります。「決議27-34」第4項に「ロータリーの哲学は、単に心構えの状態に留るものではなく、それを為なければならぬこと(他者のために奉仕すること)として実行に移さなければならぬ。」と書かれているとおりです。(引用部分は手続要覧の訳を少し変えてあります。)

4) 話は前後しますが、「奉仕の心」の奉仕とはどのような意味なのかをはっきりさせておきましょう。シェルドンは「ロータリー哲学」の中で「有用性(usefulness)こそは、提供された奉仕の程度を示すいま一つの名前」であると述べています。(小堀憲助訳p.40)。つまり、「他者の役に立つようにすること」が私たちが奉仕々々と言っている言葉の内容です。つまり、そうしようという心構えが「奉仕の心」=“The ideal of service”です。そしてその場合「自己」をどこまで犠牲にするかという程度の差によって、モットーにおける not と above の違いとなります。一番犠牲の少ないのが、余った金を寄付したりするような場合でしょう。

他者のために役立ちたいという気持ち、これは「愛」という語によって包括的に表現することもできます。しかし、この語はとてもの広い概念です。例えば、論語の中に、「仁とは人を愛す」という章句があり、仏教の経典の中にも「愛」、「愛語」等の語が出てきますが、これらは現代日本語と同じ意味なのでしょうか。キリスト教の日本語訳の「愛」は、狭義ではギリシャ語のアガペーでしょうがギリシャ語のエロースや他のいくつかの感情も日本語で「愛」と訳されます。ですから「愛」という語が何を意味しているかを正しく考えないと混乱が生ずることになります。

Service above Self は、他者のためを思う気持ちの実践を言っているのですから、そういう意味での愛(人類愛という様な広い意味を含めて)の表現であり、その実行を求めるものであると言えます。そしてより高いより純粋な境地の愛を志向する者のためにロータリー・クラブがあるのだということを、私たちは認識しなければなりません。ロータリー運動というものはロータリー・クラブでの親睦を通じて、ロータリアンひとりひとりが相互に切磋し琢磨し、それによって少しでも自己を高めようと努めることが前提となって、はじめて有意義な運動となるのです。単なる社会奉仕クラブ運動ではないのです。

Service above Self を小堀先生が「自己研鑽の奉仕」と訳しておられることの意味もお分かりいただけると思います。